

科目ナンバリング		U-LAS02 10027 LJ37							
授業科目名 <英訳>	少数言語論 Minority Languages			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 柿原 武史				
群	人文・社会科学科目群		分野(分類)	芸術・文学・言語(基礎)		使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2025・前期		曜時限	火2		配当学年	2回生以上	対象学生	全学向
(総合人間学部の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)									
【授業の概要・目的】									
「少数言語」という用語で扱われる対象についてその多様性を理解し、社会言語学的な視点から、社会における少数言語の存在、少数言語とその話者を取り巻く諸課題について考察する。それらに対して社会や人々がとりうる態度、政策などについて理解を深めることを目的とする。									
【到達目標】									
少数言語が話者数の問題ではなく、当該社会におけるその存在のあり方、扱われ方の問題であることを理解する。少数言語と言語権、言語差別という概念について理解する。言語シフト(置き換え)、言語接触、言語消失といった現象について理解する。これらの少数言語を取り巻く現象や課題を理解した上で、具体的な言語や事象について社会言語学的な視点から分析、考察、説明できる基礎的な力を養う。									
【授業計画と内容】									
この授業では、少数言語を取り巻くさまざまな現象や課題について、いくつかの具体例について社会言語学の視点から考察していく。授業では以下のテーマを取り上げる予定であるが、受講生の関心や社会的に関心を集めているテーマなどに応じて適宜調整する予定である。									
第1回 少数言語とは何か(講義で扱うテーマへの導入と概観)									
第2回 言語のバリエーション(地域方言と社会方言)									
第3回 言語接触と言語の誕生、言語の変化									
第4回 言語政策とは何か(国家と言語)									
第5回 地域少数言語と言語政策、公用語とは何か(スペインの事例)									
第6回 地域少数言語の言語教育(スペイン・ガリシア語の事例)									
第7回 地域少数言語と国家語(スペイン語とガリシア語の事例)									
第8回 少数言語教育と外国語教育(スペインの英語教育)									
第9回 ヨーロッパの言語政策(複言語主義について)									
第10回 移民の言語と国家語(アメリカ合衆国の移民受け入れ政策と言語政策)									
第11回 公民権運動と少数言語(アメリカ合衆国権利拡大の歴史)									
第12回 多言語主義と積極的差別是正措置、公用語論争(権利制限の議論)									
第13回 言語帝国主義と少数言語の将来(グローバル社会における英語の存在)									
第14回 まとめと復習									
期末試験									
第15回 フィードバック									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・観点】									
期末試験(70%)と授業参加度(リアクションペーパーや小レポートなどの提出物)(30%)に基づいて総合的に評価する。詳しくは初回授業中に説明する。									
少数言語論(2)へ続く									

少数言語論(2)

[教科書]

使用しない
スライドを用いて授業を行うが、適宜プリントも配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

別途通知

[その他(オフィスアワー等)]